

10th Anniversary

～10年の軌跡に感謝を込めて～

2025年10月11日(土)、京都府聴覚言語障害センター開所10周年の記念式典と祭典を行いました。

当センターは「京都府情報コミュニケーションプラザ」として、「南部アイセンター」も設置されており、式典には京都府視覚障害者協会の会長とセンター長にもご臨席賜り、共に10周年をお祝いしました。また、城陽障がい者就労促進・自立支援ネットワークで運営する「てづくりのお店 あんだんて」も10周年を迎えました。今後も多くの方に「活用いただける」センターを目指していきます。(2ページ関連記事)

10年の歩み

- 2015年4月 ● 京都府聴覚言語障害センター（京都府聴覚障害者情報提供施設）開所
- 2015年5月 ● 障害者支援センター「みなみかぜ」開所
山城地域活動支援センターが京田辺市から京都府聴言センター内に移転
- 2018年3月 ● 「聞こえとコミュニケーションのサポートセンター事業」受託
- 2023年～ ● 京都府聴覚言語障害センターを拠点に京都府内の各聴言センター事業を推進



城陽市
村田正明市長



INDEX

- P2 開放イベント開催！ (京都府聴覚言語障害センター)
- P3 「にじ」と「きこえの森」の交流 (京都市聴覚言語障害センター)
- P4 医学生が地域の実情を学ぶ/いこいの村まつり (いこいの村)

- P5 法人理念のさらなる追求に向けて/後援会だより (法人事業本部)
- P6 「職員紹介」「お知らせ」

京都府聴覚言語障害センター開所10周年記念企画

開放イベント開催！

450人
参加！

ガラス アート

窓ガラスにクレヨン
でお絵描き・塗り絵
をすることができ、
とっても明るくなり
ました。



城陽市役所

子ども向け手話講座

じょうりんちゃん、当法人顧問高
田英一とにぎやかに
手話を学び、バル
ーン遊びもあり
ました。



アート体験

ことばの手、いろの手



造形絵画教室こども
ひみつ基地のご
協力をいただき、
自分の手形で名前の
指文字を作りました。

コーヒー淹れ方教室



知っているようで知
らなかった美味しい
コーヒーの淹れ方を
学び、家でもやって
みます！という声を
頂きました。

視覚障害者用機器展 展示・体験

当センターの2階に
ある南部アイセン
ターでは、点字を実
際に打つ等の体験が
ありました。



モルック 体験

日本モルック協会の
講師をお迎えし、3
グループに分かれて
モルックの試合を行
いました。



● 京都府聴覚言語障害センター開所10周年記念企画を終えて

10周年記念企画実行委員会は、次の10年をみんながイメージ出来る企画にしよう！と2025年1月に発足しました。

センターを「知ってもらう」からもっと「活用いただく」ことをテーマに約9カ月間を通して多くの地域の方との交流を行いました。

「地域の自治会や店舗と、もっともつつながれるはず」「自治会の方とお話しよう」「城陽で活躍する企業との関係を作りたい」「こども食堂で出張手話教室をしたい」「地域のお祭りで、モルック体験をしよう」「地域のお祭りで何かお手伝いしたい」「世界でひとつだけのドリップコーヒーを作ろう」「カフェのガラス窓にイラストを書きたい」「夏休み自由研究のための施設見学をしよう」

など、センターを使ってもらうためにはどうしたらよいか、自由に意見を出し合い、多くの企画が実現できました。

センターと地域の皆さんが一緒になれば、色々なことができると実感することができました。

今回の企画をきっかけに「センターとまたコラボしたいな！」そんな風に言ってもらえるセンターになっていますように。

10周年記念企画実行委員一同



京都八幡高校の皆さんが
手話で『世界に一つだけ
の花』を披露されました！



高田顧問の
オリジナル
ブレンド
コーヒー



世代を超えて 楽しく遊ぼう！

『にじ』と『きこえの森』の交流



▲トランプ。ババ抜き



京都聴覚障害児放課後等デイサービス『にじ』（以下『にじ』）は、中京区の京都社会福祉会館内にあり、きこえに障害のある小学1年生から高校3年生までの子どもたちが、放課後や学休日を利用しています。

今回、夏休み企画として、高齢の方々と世代を超えた関係づくりを目的とし、京都市聴覚言語障害センターにある『デイサービスセンターきこえの森』（以下『きこえの森』）との交流を行いました。

★交流開始。ドキドキ

ドキドキしながら自己紹介。『きこえの森』の利用者の方々から「かわいいね。いくつ？」と質問され、照れながら答える子どもたち。

ババ抜きでは子どもたちの「よし!!」「ああ…」という反応でババの行方がわかってしまうこともありましたが、『きこえの森』の利用者の方々がうまくかわし盛り上げてくれました。

二つ目のゲームが始まる頃には緊張もほぐれ、子どもたちが次に使うものをセッティングしたり、移動しやすいように場所を譲ったりどう動けばお互い楽しく遊べるかを考えながら行動していました。



▲「ギリギリ止める」ゲーム。子どもたちも、お手伝い。みんなでワイワイ楽しみました。



▲最後はみんなで記念撮影!! ハイポーズ

★人生の先輩から学ぼう

最後にみんなで記念撮影！

今回、子どもたちは『きこえの森』の利用者の方々と交流することで、世代が違っても一緒に楽しめる気持ちやどのように関わったら喜んでいただけるかということを感じることができました。

『にじ』へ戻っておやつの時間に「また『きこえの森』と交流する時には何がしたいですか」と聞いてみると「スクエアボッチャー」「割り箸鉄砲を作って射的したい」「絵しりととり」「ジェス

子どもたちや保護者、 職員の思いが形に！

定員
20名へ

定員増の利用希望が寄せられていた『にじ』。

8月18日、「キャンセル待ちになることなく安心して通える場所へ!」との思いを込めた要望書が京都市に届けられました。定員変更申請は無事認可。10月1日より定員を10人から20人へ増やして再スタートしています！（冬号で詳細を紹介予定）

チャーターゲーム」などまた一緒に遊びたい思いがあふれていました。

当法人の施設には幅広い人生の先輩が入所・通所されています。今後も子どもたちの元気を届け、先輩方からいろいろなことを学べるよう交流の機会を作っていきたいと考えています。

（地域・こども福祉部

笠井禎美

医学生が地域の実情を学ぶ

綾部東部地域包括支援センターと綾部東部在宅介護支援センターでは、毎年京都府立医科大学の地域医療教育フィールドワークの受け入れをしています。今年は8名の医学生と一緒に地域で暮らし、生活の高齢者宅を訪問して、生活の様子や医療との関わりについて話を聞いていただきました。

綾部東部圏域の高齢者の暮らしとは

綾部東部圏域には病院はな



移動購買車を見学中！

く、週1〜2日開所される診療所だけでは診察や検査ができないことがあります。病院に行くためには、バスや移送サービスを利用して市街地まで出かける必要があります。商店、郵便局、金融機関なども数が少ないため、高齢者にとっては必要なところへ行き来するだけでも大変なのが現状です。

一人暮らしの90代男性は「診療所があることが大きな支えになっている。都会に住む子どもが時々帰ってきて支えてくれる。介護サービスでも支援してもらい、暮らしが成り立っている」と話されます。

また、一人暮らしの80代女性「バスに乗って一人で病院まで行く。病院への行き帰りも大変で、診察室では緊張して何を先生に伝えたらいいかわからなくなることもあって、健康を保ちたい」と話してくださいました。

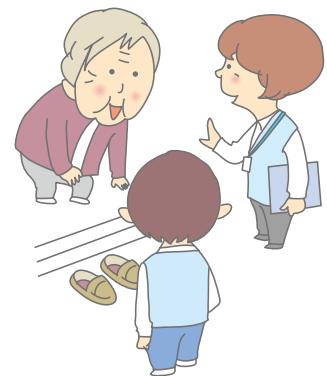
同行した医学生からは「医療との関わりが高齢者にとってどのような意味をもつか考えさせられた」「ご本人の思いや暮らしと、医療者が考えることが違うことがあるかもしれないと気付いた」などの感想が出ていました。

ご本人の続けたい暮らしに寄り添う

決して便利とはいえない環境ですが、住み慣れた地域・コミュニティの中で健康に暮らしたいと頑張る高齢者の方はたくさんいらっしゃいます。家族と過ごした大切な家

を守りたい、畑で野菜を育てたい、同じ時代を過ごした友人・知人と話がしたい等、ご本人の大切にされている暮らしを実現できるように引き続き支援をすすめていきたいと思っています。

また、地域での暮らしを支える人材育成に、今後も協力できるよう努めていきます。
(高齢福祉部 吉松美穂)



行こか、行こ行こ
**いこいの村
まつり
2025** **900人
参加!**

共に楽しく
笑っしょい 笑っしょい
ご参加ありがとうございました！
詳しくはコチラ

法人理念のさらなる追求に向けて 「事業運営の見直し」③ 委員会の機能強化

前号でお伝えした通り、本年度6月より新理事長が着任、業務執行理事を複数配置するなど、さらなる事業推進を目指し、組織体制の見直しを行いました。加えて8月より、左記の委員会を役員で構成し、各事業の課題に対して、解決方法や適正な運営に向けた協議を進めています。

共同組織委員会

委員長：藤井秀雄理事

各事業の現状と課題について、関係団体への報告に留まらず、『事業』と『運動』が連携した福祉事業の推進を図るための協議を行います。喫緊の課題である京都市内の事業所の利用低迷に対し、今後の事業のあり方を検討しています。



青空工房の取り組み（京都市聴言センター）

事業継続検討委員会

委員長：河井友佳理事



非常時のエアースタッド設置訓練（いこいの村聴言センター）

事業所は災害や感染症などの発生を想定し、事業継続のための計画整備が義務とされています。もし大地震が起こったら入所者はどこに避難するか、自宅にいる利用者の安否はどのように確認するかなど、これまで作成した事業継続計画（BCP）の点検と精査を行います。

コンプライアンス委員会

委員長：酒井弘理事

不適切な事案の有無にかかわらず、法令遵守にかかわる審議を行い、防止策を講じます。理事会の諮問機関として、コンプライアンスを推進します。



中堅職員研修で事例検討

後援会だより

法人後援会オリジナル ボールペンが完成！

このたび、法人後援会では、後援会の思いや活動への共感を“かたち”にした記念品として、オリジナルボールペンを制作いたしました。

このボールペンは、会員拡大強化月間である2025年10月～2026年3月に、世話人会や幹事の皆さまによる地域での会員拡大活動、イベント時の後援会ブース、各センター受付など、対面で更新・新規入会の手続きをされた方へお渡しします。

法人後援会は、法人の応援団です。これを機に、ぜひご入会いただき、ご支援をいただきますようお願いいたします。



応援団員を募集集中！

限定500本

法人後援会 会員の状況

（2025年4月～
2025年8月）

341名 新規ご加入 16名、継続 325名（職員含む）

目標	京都市	北部	口丹	乙訓	山城	他府県	合計
450人	450人	350人	50人	50人	100人		1,300人
会員数	113人	113人	14人	21人	39人	41人	341人
達成率	25.1%	32.2%	28.0%	42.0%	39.0%		26.2%

職員紹介



石川 富美（入職8年目）

いこいの村聴覚言語障害センター
施設第一福祉部生活支援課

栗の木寮には自身の思いを伝えること、表現することが難しい方も居られます。その方の思いを汲み取り、実現するにはどうしたら良いか悩むこともあります。思いに寄り添い、日々の生活に活かせるように考えていくことを大切にしています。

これからも様々な経験や挑戦を重ね「可能性は広く！深く！」をモットーに、言語である手話が日常にあふれ、きこえない人ときこえる人が共に生きる社会を目指していきたいと思います。

法人事業本部

橋爪 悠佑（入職4年目）



法人事業本部で主に採用の業務を担当しています。募集要項やマイナビなどの採用サイトの作成から面接、内定後のフォローまで一貫して関わっています。また、法人の未来を担う人材との出会いを求め、たくさんの大学、専門学校、高校にも訪問しています。応募してくれた学生が、入職後に笑顔で活躍する姿を見る瞬間がとても嬉しく、同時に採用業務の価値を実感しています。

法人がこれからも成長し続けるためにも、法人で働きたいと思っていただけるような出会いを創出し、法人と人材の架け橋として、より良い採用活動を目指してまいります。

第7回
京都府

耳のことフェスタ

日時

2025年12月20日(土)
10:30～15:00

会場

京都テルサ 東館 2階
(JR京都駅から徒歩15分)

講演

小児から高齢の難聴者に寄り添う
～医療現場からのメッセージ～

講師：耳鼻咽喉科ひょうごクリニック院長 兵庫 美砂子先生

その他

参加型ワークショップや機器体験
飲食交流スペースなど

参加費 無料

事前申込不要

手話通訳・文字情報あり

くわしくは
こちらから



あなたの声が
聴言ニュース
を作る！
アンケートのお願い

アンケートフォーム



大文字を観る会 2025

中止

当日（8月16日）は、急な大雨と警報発令のため観る会は中止となりましたが、雨の中、近隣の方や関係者など総勢56名が来館されました。

来年こそは実施できるよう早くから企画をお知らせいたします。



社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003
京都府聴覚言語障害センター
TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター
TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311
いこいの村聴覚言語障害センター
TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページ
はこちら

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>